

最終処分される高レベル廃棄物（ガラス固化体） に関する質問

1) 固化体に含まれるものについて詳細な情報公開を

現在国内で貯蔵中のガラス固化体は何本で、各々の固化体に含まれている放射性核種とその放射エネルギー (Bq) を明らかにすべきではないか。これは 100 年後、500 年後、1000 年後、2000 年後、8000 年後の放射能はどうなるのか。情報公開を徹底すべきではないか。

日本原燃(株)は六ヶ所再処理工場で製造した各々のガラス固化体中の放射性核種についてウランやプルトニウム同位体を含め情報公開していないが、そのような固化体を自治体に最終処分させてよいのか。

2) 未来世代へどのように埋設物の情報を伝えるのか

ガラス固化体に含有される、安定同位体(非放射性元素)を含めた元素の含有%の経年変化 100 年後、500 年後、1000 年後、2000 年後、8000 年後について示されたい。

数百年、数千年、数万年後の未来世代へしっかりと最終処分されたガラス固化体の含有物について情報を残すことがこのような扱いに困る生成物を作り出した現世代の責任と誠意ではないか。どのように情報を伝えるのか、お知らせ願いたい。

3) 固化体に含まれる超長半減期のウラン、プルトニウムの総量を

ウラン・プルトニウムの六ヶ所再処理工場の回収目標は 98.2%であり、未回収 1.8%分のほとんど高レベル廃液に含まれガラス固化されるものと推察される。年に処分される使用済みウラン燃料は 800 トンでありその 1.8%14.4 トンもがガラス固化体に含まれてきます。

ウラン 238 の半減期は 44 億 6800 年、U-235 は 7 億 380 万年、U-234 は 24 万 5 千年であり、最終処分し 8000 年経過してもほとんど減少しない。最終処分されるガラス固化体中のウラン、プルトニウムの放射能総量を示されたい。

4) ガラス固化体は約 8 千年で天然ウラン並の有害度まで低減

について

エネ庁HPにある「資源エネルギー庁がお答えします！～核燃サイクルについてよくある3つの質問」のQ1. のAにある図ではガラス固化体1本の

https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/qa_kakucycle.html

「放射能が天然ウランと同程度の有害レベルまで低減するのにかかる時間約8千年」と記載されている。ここで「天然ウラン」とは天然ウラン鉱石のことかそれとも精製された濃縮前のウランのことを指しているのか。その「天然ウランと同程度の有害度レベル」とあるが有害度の定義をはっきりさせてほしい。このガラス固化体には、再処理工場で回収できなかったウラン、プルトニウムも含まれているはずであるがその核種毎の質量と放射エネルギーを示されたい。約8千年とした計算根拠を一般の人々にわかるように説明されたい。